

事例研究報告

生徒の主体性を育むために
～サステイナブルな組織化を図って～

報告の流れ

① GJ (グッド・ジョブ) プロジェクトの取り組みについて

～コンサルテーションの実施～

② GJ (グッド・ジョブ) プロジェクトの改善点と
その成果について

③ 今後の課題と現在の取り組みについて

※以下、「グッド・ジョブ」については、「GJ」と示す。

① GJプロジェクトの取り組みについて

高等部生徒の実態

- ・令和4年度, 30名の生徒が在籍。そのうち15名が, 隣接する障がい児入所施設から通学している。
- ・障がい特性や生育歴等の環境要因から, 自分に自信がなく受動的な態度の生徒が多い。これらのことから, 自尊感情や自己有用感の低さがあると推察された。

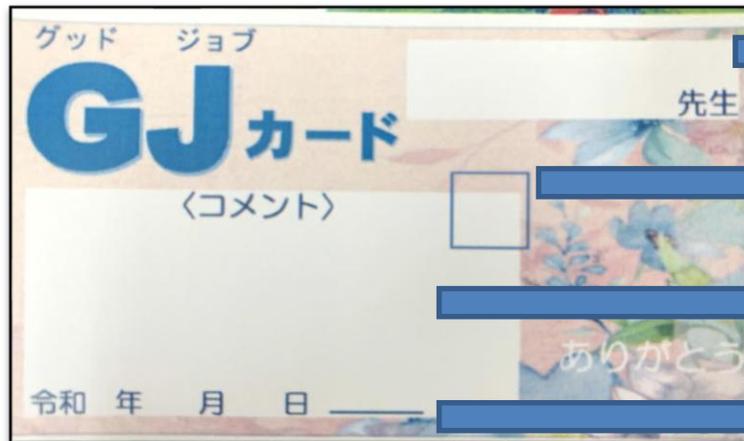


生徒の自尊感情や主体性を育て高めるため,
GJプロジェクトを開始。

GJプロジェクトの取り組みについて

○GJカードの作成

- 生徒が「人のため」「学校のため」になるような行動をとった際に、教員からGJカードを手渡し、賞賛。コメント欄には具体的に良かった点を記述する。
- GJカードの活用目的は、「生徒の主体的な行動を促す動機づけ」
- 主体的な行動の記録も兼ねて、「花丸」を記入できるようにした。
→それぞれの名刺ケースを見れば、新たに記録をとる必要がない！
- カードのデザインは毎月更新。管理職限定レアカードもあり！



記入する先生の名前を記入。

「主体的な行動」の場合にのみ「花丸」を記入。

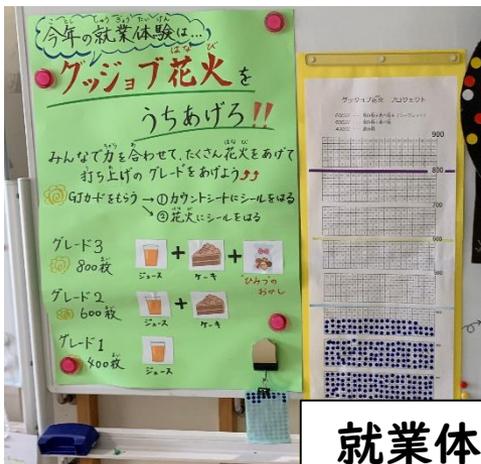
評価する内容は生徒の実態に応じて。結果よりも過程の称賛を意識。

___には時間（1校時→①，2校時休み時間→②休等）を記入。

GJプロジェクトの取り組みについて

○GJ関連イベントの開催

- 花丸のついたGJカードをツールにして、期間限定のイベントを定期的で開催。
→GJプロジェクトのマンネリ化を防ぐ。
 - 就業体験イベント…就業体験期間中に高等部全体でもらった花丸の数に応じて、打ち上げのお菓子のグレードが変わる。
 - GJ桜…花丸をもらったら桜の木に花を貼る。卒業式までに満開にすることが目標。
- 就業体験イベントにはトークンの要素があるが、GJ桜はトークンの要素なし。
→GJカードは「目的」ではなく「手段」にしたい。



就業体験イベント

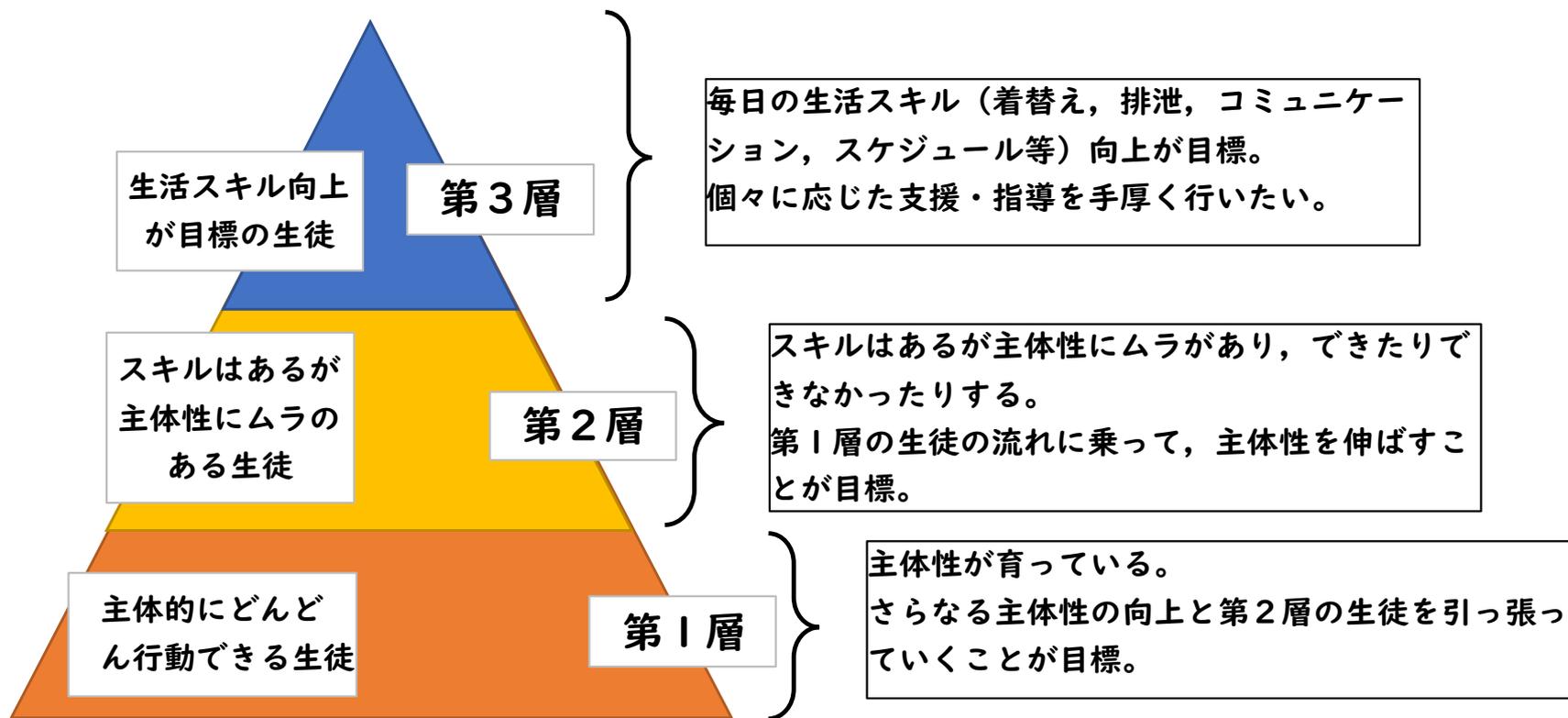


GJ桜

GJプロジェクトの取り組みについて

○高等部全体を3つの層に分ける

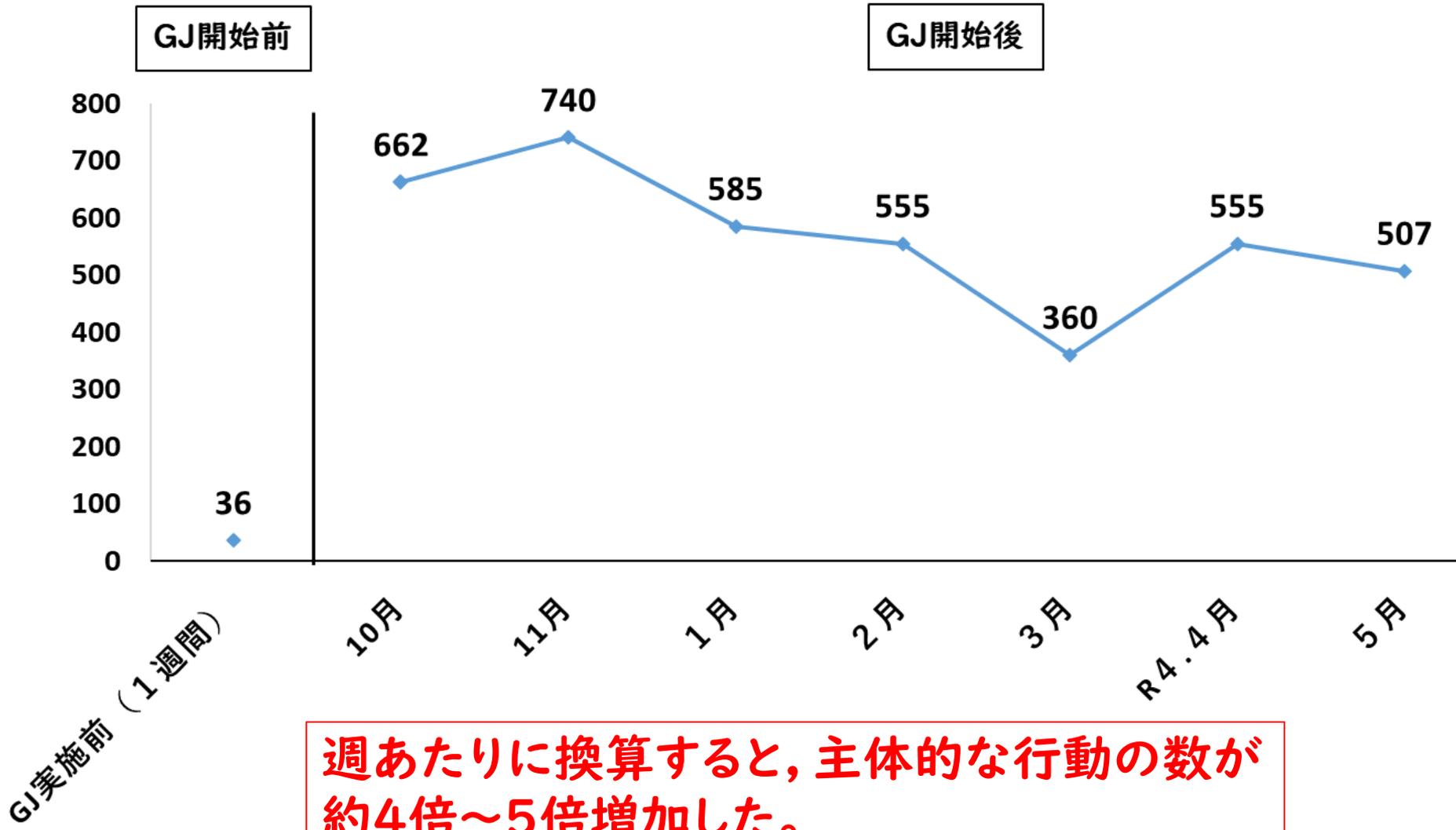
- 日常生活の指導において、生徒の実態に基づいて、3つの層に分けた。
→主体性の向上をねらう生徒と、生活スキルの向上が目標となる生徒を明確にし、共通認識を図る。



GJプロジェクトの取り組みについて

○主体的な行動の数の変化

※GJ実施前の主体的な行動の数は、担任が生徒を観察し、回数を記録したもの



週あたりに換算すると、主体的な行動の数が約4倍～5倍増加した。

GJプロジェクトの取り組みについて

○学部ワイドで取り組むために

GJプロジェクト組織委員会

組織委員会の目的
GJプロジェクトにおける高等部教員の役割を明確化し、高等部全体の取り組みとして継続的に実施していく。

組織図

相談役 (アドバイザー)
**校長
教頭**

統括：学部長

GJP (プロダクション)
【カード制作】
◎A (美術教員)
B

カードのデザイン
印刷・補充

GJA (アプローチ)
【企画・アイデア】
◎C
D
E

企画の立案・提案

GJAS
(アプローチスチューデント)
【僕らの意見】
P

GJプロジェクト
に関する提案

GJR (リサーチ)
【統計・研究】
◎F
G
H
(統括)

状況把握
資料作成

GJM (メッセージ)
【広報】
◎I
J

HP更新
データ管理
掲示物の制作

GJS (サポート)
【個別支援】
◎K
L
M
N
O

個別の支援の検討
支援ツール作成
時間割調整

- 学部全体でGJプロジェクトに取り組むために、組織委員会を設立。
- 毎月1回セクションリーダー会議を実施。
- 各セクションの進捗状況やGJプロジェクト全体の課題の情報共有。

GJプロジェクトの取り組みについて

○各セクションの役割概要

プロダクション班

- ・GJカードのデザイン考案, 印刷
- ・GJイベントに伴う掲示物等の作成

アプローチ班

- ・GJプロジェクト全体の企画
- ・GJイベントの企画, 運営

リサーチ班

- ・生徒のGJカード獲得枚数の記録
- ・GJプロジェクトの効果に関する情報収集, 考察

メッセージ班

- ・GJプロジェクトの広報活動(HP更新, 掲示物作成等)
- ・記録写真のデータ管理

サポート班

- ・3層生徒に対する個別の目標, 手立て, 記録等のサポート
- ・3層支援の進捗状況の確認

GJプロジェクトの取り組みについて

○GJプロジェクトを継続的に続けていくための課題

- ・ 学部ワイドで動き始めてはいるが、組織として動けていない。
- ・ セクションを教員の得意分野で分けたため、セクションごとの仕事量や難易度に大きな差がある。

→今後教員の異動があった際に継続が難しくなる懸念あり。



GJプロジェクトをサステイナブルな取り組みにするために、
どうしていけば良いのか、コンサルテーションにて
専門家の助言をいただきたい!

⇒セクションリーダー会議に参加していただき、
各セクションの課題についてご助言をいただくことにした。

各セクションからの相談

プロダクション班

担当教員が美術専門の教員だから、GJカードや掲示物の製作ができているが、異動があった場合、どのように引き継ぎしたらよいか？

アプローチ班

常に仕掛けを考えることが負担。リーダーに仕事が偏っている。どうやって持続可能にするか？

リサーチ班

生徒の主体性が向上されているのかを知るために、生徒用のアンケートをとりたい。アンケートの内容、フィードバックの方法を知りたい。

メッセージ班

新たな掲示の方法を考えたり、生徒の活動の様子を動画に撮ったりしたいが、教員2名で行っているため、手が回らない。

サポート班

リーダーに負担が大きい。班の中で効果的な役割分担をするには？3層支援を充実するために、支援方法を統一し、記録をとりたいが、現状上手くできていない。どうすればよいか？

アドバイザーからの助言

全体として

- ・教員が楽しめているか？を再度考え直して欲しい。負担があっても「楽しい」と思えることが大事！
- ・教員が頑張りすぎている。ずーっとなにかするのではなく、時々するのでもいいのでは？マイルドに続けていくことが大事。
- ・学校組織の中で、このプロジェクトが何割占めているか。プロジェクトにかかりすぎていないか。
→プロジェクトを成功させるために、なにか仕事を減らす。
(期間限定でもいいので)



☆教員の業務のスリム化を図る!!

アドバイザーからの助言

プロダクション班

- ・GJカードのデザインを毎回変えなくても良いのではないかと？
→ある程度季節に応じたデザインができれば、使い回しても良い。

アプローチ班

- ・企画の数を減らす。アイデア勝負だけでなく、フォーマットを作り、あてはめていけばある程度の形ができるものとする。
- ・企画をする場に、他のメンバーも入れ、アイデアを出す練習をする。

リサーチ班

- ・アンケートは、出た意見が次に繋がる内容にする。
- ・このプロジェクトで、生徒のどんな行動が増えているのか統計をとる。

メッセージ班

- ・できることのみする。今より手間を減らして同じ効果が得られるようにする。

サポート班

- ・仕事内容が独立しており、課題の中身が他の班とは違う。
- ・「記録を取れない」「手立てがバラバラになる」のはなぜか考える。
→いろいろな支援方法を試している。うまくいってもいかなくても、「この期間はこの方法でいく」という方針をつらぬく。うまくいかない日が続いた場合のみ手立てを変える。
- ・サポートの方法を他の教員にも体験してもらう。

② GJプロジェクトの改善点と

その成果について

助言を受けての改善点

- ①GJカードのデザインを月ごとに固定化。毎年使い回せるようにした。（月に3つほどのデザインで作成・使用）
- ②生徒が作ったデザインをカードに採用した。
- ③オールシーズン利用できるノーマルのGJカードを作成した。



改善の成果

- ・カードが余っても翌年に使用できるので、余ることを気にせず印刷できるようになった。
- ・オールシーズン使えるカードを作ることで、デザイン作成・印刷に手が回らない時に、カード不足になることがなくなった。
- ・生徒が作成したカードを渡した先生から、もらって喜ぶ生徒の声をうかがった。

7月



11月



ノーマルGJカード



助言を受けての改善点

- ①企画の数を減らした。
- ②双六の台紙のように、必ずマス目を用いた企画（イベント）を用いるようにすることで、企画考案のスリム化を図った。
- ③リーダー以外の班員で考案した企画を実施した。

改善の成果

- 企画数を年間4回に減らし、生徒の反響が良かった企画は毎年実施することで、企画の考案に係る時間が軽減された。
- 双六方式の企画を考案するようにしたことで、生徒がもらったGJカードの枚数を数えずに済み、負担が減った。
- リーダー以外の班員が企画を考案したことが経験となり、次回に活かせるようになった。



双六方式の台紙を作成
→一目で全体の花丸の数が分かる。



リーダー以外の班員企画

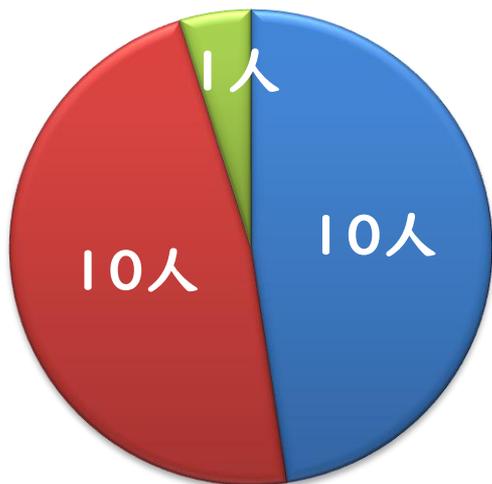
助言を受けての改善点

- 生徒用のアンケートを作成, 実施する。
 - 質問事項については他班の教員とも相談しながら作成。
 - 生徒の実態をできるだけ把握できるように選択式や記述式の質問内容を吟味して作成。

改善の成果

- GJプロジェクトを通して、生徒の心境にどのような変化があったかを生徒の言葉で把握することができた。
- 特に1層や一部の2層の生徒については、GJカードをもらうためではなく、主体的に貢献的活動をしていきたいという意識が芽生えはじめていることがわかった。

GJカードをもらってどう思いましたか？



■とてもうれしかった ■うれしかった
■あまりうれしくなかった ■うれしくなかった

これからも自分から進んで活動しようと思いましたか？



■とても思う ■思う
■あまり思わない ■思わない

【生徒自由記述より】

- ・感謝されて嬉しい。
- ・カードをもらって、自分も人の役に立てる所があるんだと思えた。
- ・今後も人の役に立つ活動がしたい。
- ・みんなのためになり、達成感がある。
- ・もっと信頼されるようになりたい。
- ・もっと自分の役割が欲しい。

助言を受けての改善点

- ①活動写真を撮ることをGJタイムに参加している各先生方に依頼。
- ②広報ポスターを生徒に授業等で作成してもらうよう依頼。

改善の成果

- 定期的にアナウンスすることで、写真を撮ってもらえるようになった。
- 自立活動の時間を用いて、生徒が教員と一緒に広報ポスターを作成し、掲示してくれた。

～GJジョブカード～ 活動について

高2-2

● 調べたことについて
GJジョブカード活動について、目的や方法について先生にインタビューしたり、みんなの活動の様子を撮影して、写真も撮ったり、感想を聞いてまとめた感想文を書いた。

目的について

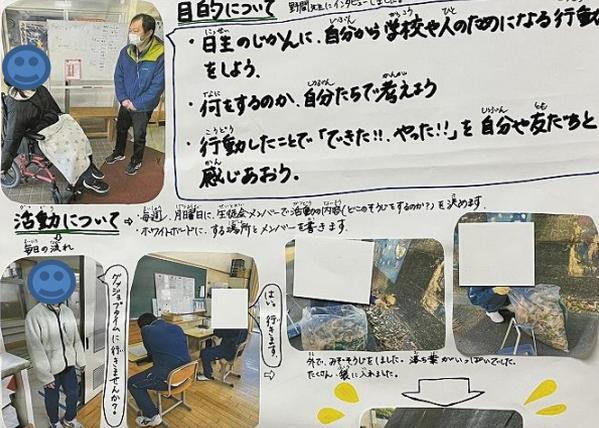
- ・ 日頃のしゆかに、自分や学校や人の役にたつ行動をしよう。
- ・ 何をやるのか、自分たちで考えよう。
- ・ 行動したとき「できた!!、やった!!」を自分で反らると感じよう。

活動について

● 毎週、月曜日に生徒会メンバーで活動の準備(ビデオカメラの準備)を決めよう。
● 不慣れたことに、やる場所とメンバーを書き出す。

まとめ

- ・ 朝の9:15~9:25(10分間)で学校からどこかへ行った。
- ・ クラスにGJジョブカードの活動の様子を撮影してもらって、写真も撮ってもらった。
- ・ クラスで活動しているときは、行動がていよい。
- ・ 自分や学校や人の役にたつ行動をしよう。



GJジョブ通信

～毎週金曜日の取り組み～

3年

● 毎週金曜日の取り組みについて、みんなの活動の様子を撮影して、写真も撮ったり、感想を聞いてまとめた感想文を書いた。

目的について

- ・ 日頃のしゆかに、自分や学校や人の役にたつ行動をしよう。
- ・ 何をやるのか、自分たちで考えよう。
- ・ 行動したとき「できた!!、やった!!」を自分で反らると感じよう。

活動について

● 毎週、月曜日に生徒会メンバーで活動の準備(ビデオカメラの準備)を決めよう。
● 不慣れたことに、やる場所とメンバーを書き出す。

まとめ

- ・ 朝の9:15~9:25(10分間)で学校からどこかへ行った。
- ・ クラスにGJジョブカードの活動の様子を撮影してもらって、写真も撮ってもらった。
- ・ クラスで活動しているときは、行動がていよい。
- ・ 自分や学校や人の役にたつ行動をしよう。



GJジョブ活動の進化について～今後の取り組み～

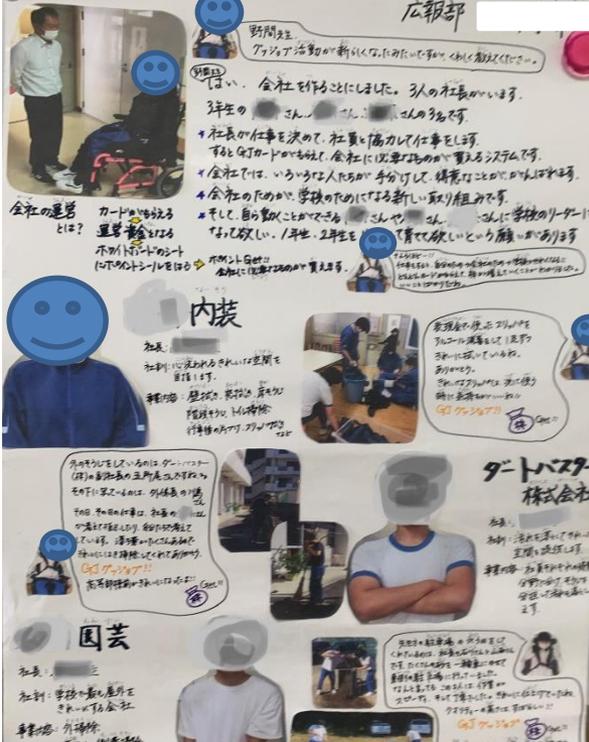
広報部

内装

● 毎週、月曜日に生徒会メンバーで活動の準備(ビデオカメラの準備)を決めよう。
● 不慣れたことに、やる場所とメンバーを書き出す。

まとめ

- ・ 朝の9:15~9:25(10分間)で学校からどこかへ行った。
- ・ クラスにGJジョブカードの活動の様子を撮影してもらって、写真も撮ってもらった。
- ・ クラスで活動しているときは、行動がていよい。
- ・ 自分や学校や人の役にたつ行動をしよう。



• GJプロジェクトの取り組みを、授業とリンクさせることで
教員の負担減 , 生徒の意欲UP 

助言を受けての改善点

- ①サポート会議で目標や手立て、達成基準までを明確に決める。
- ②記録用紙の改善。
→記録の記入は点を打つのみ、繋げればグラフになるよう工夫。
- ③学部会や回覧にて、3層の生徒の個別の目標や手立てを共有。
→学部会の時間を使って、取り組みを紹介。



改善の成果

- ・全クラスの3層の生徒について、日常生活の指導の時間にサポート会議で話し合った目標について、指導を実践することができた。
- ・記録用紙を改善することによって、記録の負担を軽減することができ、全てのクラスで活用することができた。
- ・サポート会議で、細かく指導方法について検討することで、担任だけで悩むことがなくなり、助かったとの声をいただいた。

ここが成功のポイント

- ・高等部教員アンケートより

- GJプロジェクトをとおして、生徒が成長していく姿を感じることができた。

- GJタイムを中心に生徒が主体となって、学校や人のためにできることを考え取り組むことができた。

- 今後も高等部教員全員が把握してプロジェクトに参加できるようにしていきたい。

等のポジティブな意見が多数、寄せられた。

⇒教員の負担感が減り、生徒たちの確かな成長が感じられたため、前向きな意見が挙がったと考えられる。

③ 今後の課題と

現在の取り組みについて

今後の課題

- ・2回目のコンサルテーションにて
「GJプロジェクトのゴールは何だろう？」



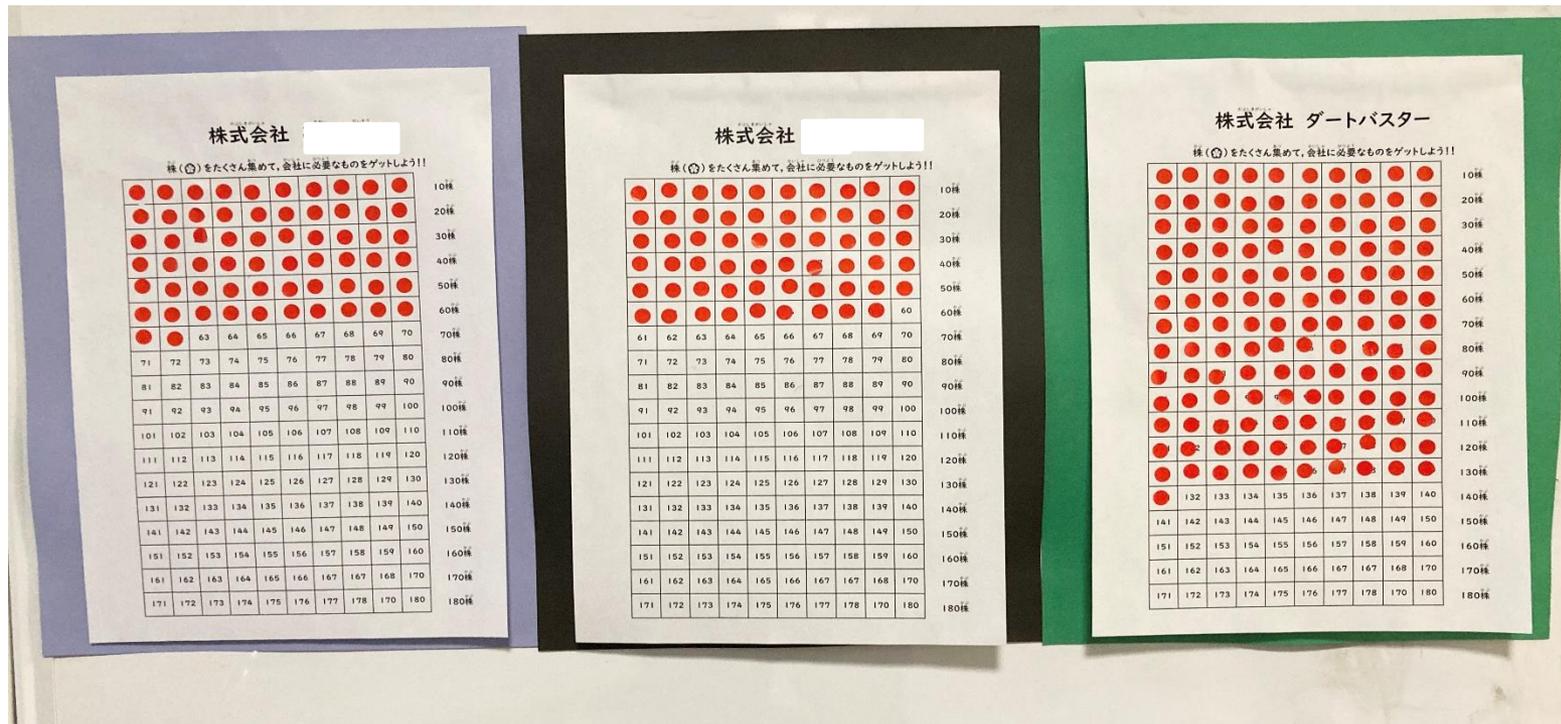
「先生を助ける」意識ではなく、
「自分たちの環境を変える」意識で
このプロジェクトに参加できる生徒を育てること

⇒ 生徒主体でGJプロジェクトを進めていく!!

現在の取り組み…

○「株式会社制度」導入

- ・1層の生徒を社長に任命。社員（生徒）を自ら募集し、会社を設立。
- ・GJタイムでの仕事を見つけ、実施。→ GJカードをもらう。
- ・GJカードの数だけシール（株）をためる。
→会社に必要な物品（掃除用具等）を購入できる。



取り組みの成果

- ・1層の生徒の主体性UP。
- ・生徒同士で声をかけあい、自分たちで考えて行動する姿が見られるように!

来年度以降も、長期的なスパンで
生徒たち主体でプロジェクトを進めていけるよう
取り組んでいきたい。